

ツール 37：コンフリクトスタイル

このツールの目的

さまざまなコンフリクト（対立）対応のスタイルがどのように個人やグループの力学に影響を与えるかについての気づきを生み出し、参加者があらゆる状況で適切なコンフリクト対応のスタイルを選べるように図る。

このツールを使うタイミング

共創のフェーズ。このフェーズにおいて、このツールは、メンバーが効果的に関わり協働するのに役立つ。

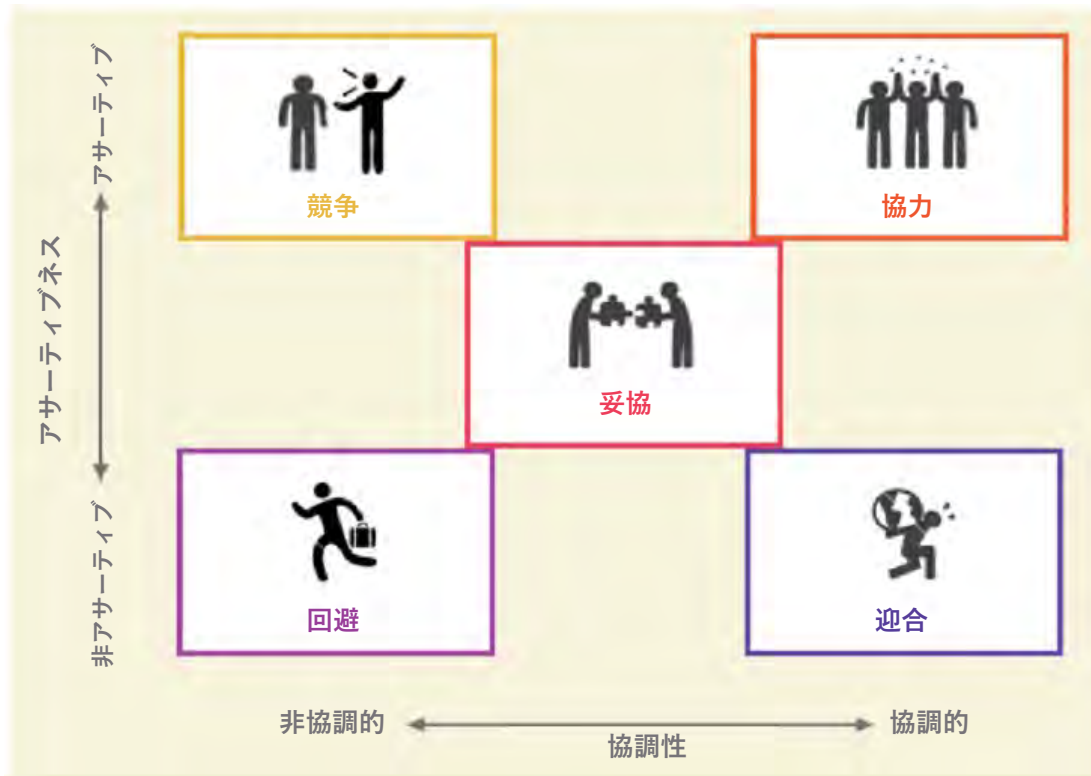
コンフリクトスタイルとは

トマス・キルマンのコンフリクト・モード・ツール（Thomas Kilmann Conflict Mode Instrument）は、コンフリクト（対立）のある状況（2人の人間の利害が並び立たないように思われる状況）の下での個人の行動を評価するものだ。

コンフリクトのある状況では、次の2つの基本的側面から人の行動を表現することができる：（1）アサーティブネス：個人が自分の関心事を満たそうとする度合、（2）協調性：個人が相手の関心事を満たそうとする度合。

これら2つの行動側面は、コンフリクト対応の5タイプを定義するのに用いることができ、また、さまざまなコンフリクト対応スタイルを効果的に用いるにはどうすればよいかについての詳細な情報を提供してくれる。

の5つのコンフリクト対応スタイルは以下である：



出典：CPP

競争

相手の損得を犠牲にしても、自分の関心事を満たそうとすること

協力

両者の関心事を完全に満たすことのできるようなウィン・ウィンの解決法を見出そうとすること

妥協

両者の関心事を部分的に満たすことのできる、許容可能な着地点を見出そうとすること

回避

誰の関心事も満たそうとすることなく、コンフリクトを避けること

迎合

自分の損得を犠牲にして、相手の関心事を満たそうとすること

なぜこのツールを使うのか？

異なる状況下では誰しもが異なるスタイルを用いるが、人は通常、この5つのコンフリクトスタイルのうちの1つか2つが自分に向いていると感じる傾向にある。パーソナリティや性格、育ち、文化、仕事環境などが組み合わさって、これに影響を与えている。強固なチームは、課題に対処する上で、さまざまなコンフリクトスタイルの持ち主がいる傾向にある。

トマス・キルマンのコンフリクト・モード・ツールは、30の対になった文章から成るテストを提供しており、グループが、メンバーがコンフリクトに対応するさまざまな異なる方法について理解できるようにしてくれる。

マルチ・ステークホルダー・プロセスを促進するに当たってのこのツールの活用による付加価値とは、ステークホルダーが自分のコンフリクトスタイルを理解し、他のスタイルについて学んでしまえば、特定の状況において効果的かつ適切なコンフリクトスタイルを意識的に選べるようになることである。

この分析結果を足掛かりにすれば、ファシリテーターは、安心してコンフリクトに関する議論の口火を切り、今まさに発生しつつあるコンフリクトのパターンを明らかにし、顕在化したコンフリクト行動に疑問を投げかけることができるようになる。

さらに知りたい方は：

CPP: Thomas-Kilmann Conflict Mode Instrument (TKI™) www.cpp.com/products/tki/index.aspx このテストはオンライン購入が可能。オンラインの他サイトでは、紙とペンを使ったバージョンが見つかるかもしれないが、上記がオフィシャルサイトであり、プロフィールとその解釈のレポートを生成できる。

A 3-minute introduction to TKI: [Four tips for managing conflict](#)

Thomas, K.W. & Kilmann, R. H. (2008). Thomas-Kilmann Conflict Mode Instrument. Profile and interpretive report.

https://kilmanniagnostics.com/wp-content/uploads/2018/03/TKI_Sample_Report.pdf